

コーチング解体新書

～やる気を引き出す源泉を探る～

その76 今していることは、
あなたにとってどんな意味があるの？



猪俣 恭子
中央大学文学部卒
卒業後足利銀行に7年間勤務。窓口業務を経て、人事部研修グループで行内研修の企画・運営および講師を担当。退職後は家業の印刷会社に従事。2004年からはコーチングを用いた社内の人材育成を手掛け、「良質なコミュニケーションが実現されている現場こそがビジネスの成功をうむ」と実感し、2006年 Coaching Press 株式会社（現 株式会社 story 1）を設立、代表取締役として現在に至る。
国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチ
財生涯学習開発財団認定マスターコーチ
コーチエイCTPクラスコーチ
米国CCE,Inc.認定 GDCF-Japanキャリアカウンセラー

私たちのモチベーションはいかなる時に上がるだろうか？

やりたいことをしている時？ 褒められた時？ お天気がいい時？ 給料が上がった時？ など、動機になるものは、人によって千差万別だ。

ただひとつ言えるのは、「今していることの意味」づけができた時は、間違いなくモチベーションは上がる。例えば、「今、この勉強をしているのは、将来建築家になってこんな家をつくりたいからだ」「今、この研究をしているのは、新薬の開発を待っている患者様のためだ」「今、この商品を売っているのは、お客様の夢を叶えることにつながっているんだ」など。

そういう時は、今している仕事は単なる「作業」ではなく、「社会に貢献」するものになる。社会を構成する一員として、自分の存在が実感できる瞬間となる。やりがいを感じられて当然だ。

話は変わるが、実は私、身体のメンテナンスにと、カイロプラクティックを定期的に利用している。先日、施術してくださったスタッフがこんなことを言っていた。

「私たちは、外でチラシ配りもします。本当は、そういうのはあまり好きじゃないんです。でも、チラシを渡すことで、いつかお客様と今のような時間がつくれる、そう思いながら配っています。そう思ってやっていると、『ここにこんなお店があったんだね。今日は時間があるから少しやっていこうかな』と利用される方がいらっしやるんですよ」と。

また、他のスタッフはこんなことを語ってくれた。

「将来は、地元に戻って高校生のスポーツ選手のトレーナーがしたいんです。そのためには、まずこのお店で経験を積んで、実際にスポーツ選手のトレーナーをやりたいなと思っているんです」と。

顧客として実感したことだが、今していることが将

来につながっている人を前にすると、安心して仕事をお願いできる、そんな気持ちにもなった。

さて、ピーター・ドラッカーの著書の中に、3人の石切り工の昔話がある。

3人の石切り工が、「何をしているのか」と尋ねられ、それぞれ次のように答えたというものだ。

最初の人は、「これで暮らしを立てているのさ」と。2番目の人は、「石切りの仕事をしているのさ」と。3番目の人は、「大寺院をつくっているのさ」と。

同じ仕事をしていても、この3人のようにモチベーションがそれぞれ異なっている。最初の人は、モチベーションが仕事にはない（処遇が良い、家から近い、など）。2番目の人は、モチベーションが仕事そのものである（自分の能力を生かせる、スキルアップしたい、など）。最後の人は、モチベーションがその仕事の先の実現したいものにある。

最初の人の場合は、困難な仕事を前にすると、途中で諦める可能性が高くなる。2番目の人は、担当替えや転勤など仕事が変わると、転職する可能性が高くなる。最後の人の場合は、その目的がお互いに共有しやすい。ともにその夢を叶えたい、という気持ちにもなってくる。応援したくもなってくる。

動機そのものにもいいも悪いもない。しかし、今の相手の動機が何であるかによって、仕事の仕方や成果だけでなく、その人が属する組織にも大きく影響する。あなたの目の前の部下の動機は、3人の石切り工のどれに近いだろうか？ 最後の石切り工のようになってほしいのなら、折に触れ、相手に質問しよう。

「今していることは、あなたにとってどんな意味があるの？」と。相手は問われているうちに、少しずつ深い意味づけができるようになる。そうして質問を続けるのも、上司としてのあなたのささやかな仕事である。



株式会社 story 1

〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所6-17-17-310 電話 048-863-8914 FAX 020-4665-3162
http://www.storyione.com/ (「コーチング解体新書」バックナンバーも掲載中!!)